

ムギ類赤かび病情報第2号

平成24年5月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

今後の気象状況に注意しましょう

1 ムギ類の生育状況と防除適期

春先から気温が低く推移したため、ムギ類の生育は平年よりやや遅れています。現在、11月中下旬に出芽した農林61号、イワイノダイチがそれぞれ出穂期、開花期を迎えています。

赤かび病感染予防のための防除適期は、穂ぞろい期から開花初期までです。ムギ類の生育をよく観察し、防除適期を迎えたほ場では、早急に防除を行いましょう。

2 今後の気象状況と赤かび病の発生予測

名古屋地方气象台4月27日発表の1か月予報によると、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れる日が多い見込みです。気温は平年並または高い確率とともに40%、降水量は平年並、日照時間は平年並と予想されており、赤かび病が多発する気象条件とは言えません。しかし、出穂前後から乳熟期に降雨が続く場合は急激に発病が広がるので、ムギ類の生育状況と今後の気象状況によっては注意が必要です。

3 赤かび病の感染生態

赤かび病の第1次伝染源は子のう胞子で、湿潤状態で飛散します。雨が降った当日から2日後にかけて胞子が多く飛散するため、降雨後は、赤かび病菌に感染する可能性が高まります。雨が降る前の予防的な防除が効果的ですが、できない場合は、雨がやんだら、早急に防除を行うことが大切です。

4 防除対策

1回目の防除後にも降雨が続く場合は、乳熟期頃を目安に2回目の防除が必要になります。防除薬剤は、治療効果のあるトリフミン乳剤（小麦）・水和剤（麦類）、チルト乳剤25（小麦）などから地域の実情に応じて選んでください（平成24年4月4日発表の「ムギ類赤かび病情報第1号」を参照）。

なお、排水不良のほ場では、本病の発生が助長されますので、排水溝の手入れなどを実施しましょう。